日刊 動労千葉

81.6.23

No.772

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二ー八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

全組織をあげて反弾圧・銚子支部結成への闘いに突入せよ！

分裂主義者「本部」派を糾弾し、6・29銚子支部結成へ！

六月二十日、銚子支部の分裂をあらかじめ「本部」反動分子と計画し、共謀し、準備し、強行した動労「本部」派の行為を徹底的に糾弾しなければならない。彼らこそ、動労千葉および銚子支部組合員の二年有余にわたる銚子支部の大同団結にむけた今日までの苦闘を足げにした分裂破壊主義者そのものである。動労千葉は、かかる銚子内に分裂を持ちこみ強行した「本部」派を徹底糾弾し、銚子支部を真に継承する動労千葉銚子支部を六月二十九日結成することを決定した。全組合員はこの決定方針を自らのものとして総力決起することを要請する。

動労千葉は、六月二十日、第十五回支部代表者会議、六月二十二日、第十五回闘争委員会を開催した。そして、第一に、動労「本部」反動分子が「六・一二集団暴行事件」なるデッチ上げ・権力へのタレコミ告訴路線をもって、動労千葉を権力に売渡すという反階級的暴挙にうってでたことに対し、怒りを燃やし、階級的魂と良心にかけて、この権力の犬「本部」反動分子を断罪し、反弾圧闘争を組織の総力をあげてたたかうことを決定した。

六月二十日、銚子支部管谷執行部の招集によって「銚子支部の組織方針」を決定する臨時大会後の一時間を経ずして、革マル分子・緒方、四・一七津田沼襲撃下手人・神保の指導のもとに「本部」派支部を33名で結成したと当局に通告したという。

この事態の中に、二年有余におよぶ「銚子支部を割ってはならない」という努力を踏みにじり、銚子を分裂させ、混乱をもちこんだ者が「本部」派の諸君であることを鮮明にしたといえよう。

「本部」派は、もともと爪のアカ程も「銚子支部の利益」など考えずただひたすら、銚子を分裂させ混乱させることを「本部」反動分子の先兵と化して策動してきたのである。

その分裂策動の第一は、昨年末の「動労『本部』としての業務再開」決定を強行し、「これに従えないものは脱退届を提出せよ」と強要し、国労へ十二名の脱退を容認したということ。

第二に、銚子支部臨時大会の前日から、革マル分子・神保を銚子に招き入れ、臨時大会終了後に「本部」派再建大会を計画し分裂を前提としていたのである。

わが動労千葉は、かかる分裂主義者を許すわけにはいかない。ましてや、権力の犬と化し動労千葉を権力に売渡すことを平然と行う労働組合ならざる労働組合になり下った「本部」反動分子の手先となることをあえて承知して「本部」派に行くのならばなおさらである。

わが動労千葉は、結成以来培った組織の総力をあげて、銚子支部の利益と未来のために奮闘することを明らかにする。

心ならずも「本部」派の一員に名を連ねた諸君。そしていまだ自らの進むべき方向を選択しかねている諸君！ 動労千葉は、六月二十九日、銚子支部結成大会を挙行する。すべての諸君がこの結成大会に結集することを心から訴える。

県警・船橋警察ー「本部」一体となったデッチ上げを許すな！

革マル分子・コロビ屋嶋田誠、署私服四名が、津田沼電車区構内に無断で二回にわたって侵入し、電車区入口・待機所附近をなにやら物色し、なにも見つけ出せぬまま区長に「許可なく電車区構内に立ち入るな」と申し入れられ立去ったのである。

しかし、その後、私服四名が電車区構内にあらわれ、区長、首席助役立ち合いのもとに入出区先踏切手前で自分達がもってきたこわれたカサを置き写真をとり、現場検証らしき行為を約四十分行い立ち去っていったのである。

これは、私服自身が持ちこんだカサをあたかも「六・一二」デッチ上げ事件の遺留品であると二重のデッチあげを策した行為であり、われわれは絶対に許すことはできない。

斉藤吉司ら「本部」によるデッチ上げ、タレコミ告訴を受け、動労千葉絶滅のチャンスとばかりに国家権力は、弾圧策動を開始している。一方、嶋田誠につづいて六月十八日、〃告訴人〃斉藤吉司は船橋警察に自ら出頭し、長時間にわたってデッチ上げタレコミを行ったのである。

これを受けて六月十九日船橋

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！